

# 第4期第4回詳報

## 子らのケア息長く

### 被災者と信頼構築重要

311  
**次世代塾**  
 伝える／備える

東日本大震災の伝承と防

災の担い手育成を目的に河北新報社などが開く通年講座「311『伝える／備える』次世代塾」第4期は8月、第4回講座をウェブ配信した。「子どもの心のケア」をテーマに2人の講師が講義をした。

生活困窮世帯への支援や子ども食堂の運営などに取り組むNPO法人アスイク(仙台市)は震災発生後、避難所や仮設住宅の子どもたちに勉強を教えた。代表理事大橋雄介さん(40)は「学習支援は課題発見の

入り口にもなる。被災者と信頼関係を築くと『こうい

うことに困っていて…』と話してくれる」と振り返った。

震災を契機に、以前は見えにくかった子どもや家庭の問題が、避難所や仮設住宅で表面化したという。「日頃から生活基盤の弱い人たちが困らない社会をつくっておくことが、有事の際のセーフティネットになる」と訴えた。

親を亡くした遺児・孤児を支援する、あしなが育英会のグリーンプログラムデ

イレクター相沢治さん(45)は、喪失体験をした子どもへの反応を説明した。悲しみや怒り、不安の様子を不すほか、はしゃいだり乱暴になったりすることについて

「病气や異常ではなく健全な反応だ」と述べた。より良い支援者であるために自分自身をケアすることの重要性も指摘し、「誰かを大事にしようと思ったら、まず自分の体やプライベートを大事にしてほしい。長く子どもの支援を続けるには、自分の心身が健康でなくてはいけない」と呼び掛けた。



震災後、子どもたちに勉強を教えるアスイクの学習支援ボランティア=2011年7月、仙台市若林区伊在の仮設住宅団地集会所

### 受講生の声

#### 「誘導せず」大切

「子どもをまるごと受け止める」という相沢治さんの言葉が印象に残りました。悲観的な考えを否定したり、無理に楽観的な方向に誘導したりしないことの大切さを学びました。将来はまちづくりで被災地の復興に関わり、地域の笑顔を増やしたいと思います。(東松島市・東北工大3年・三浦七海さん・20歳)

#### 自立意識し支援

大橋雄介さんは「被災者にも役割を」と話しました。被災者ができることをすることで、自分が必要とされているという気持ちや、悲しみから抜け出そうとする意欲を促すことにつながります。自立に向け、与えるだけではない支援が必要だと思いました。(仙台市青葉区・東北大2年・軽部勇樹さん・20歳)

メモ 311「伝える／備える」次世代塾を運営する推進協議会の構成団体は次の通り。河北新報社、東北福祉大、仙台市、東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工大、宮城学院女子大、尚絅学院大、仙台白百合女子大、宮城大、仙台大、学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、みちのく創生支援機構。

